

# 『戦争と性暴力の比較史へ向けて』 刊行記念シンポジウム

## プログラム

総合司会

蘭信三・佐藤文香

13:00 編者代表挨拶

上野千鶴子

13:10 第1部

コメント『戦争と性暴力の比較史へ向けて』をどう読むか？

川喜田敦子(中央大学)

中村理香(成城大学)

桜井 厚(日本ライフストーリー研究所)

岡野八代(同志社大学)

岩崎 稔(東京外国語大学)

14:50 <休憩>

15:30 第2部

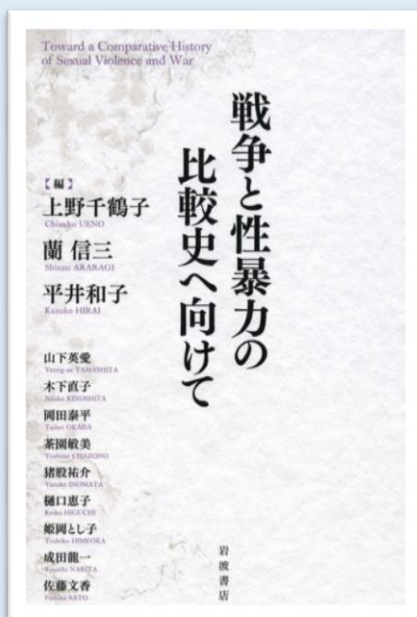
執筆者からのリプライ

16:20 第3部 総合討論

17:50 編者閉会挨拶

平井和子

18:30~20:00 懇親会



## コメンテーター・プロフィール

川喜田敦子:ドイツ現代史、『ドイツの歴史教育』(白水社、2005年)

中村理香:アジア系アメリカ文学・文化／ジェンダー論／ポストコロニアル理論、『アジア系アメリカと戦争記憶—原爆・「慰安婦」・強制収容』(青弓社、2017年)

桜井 厚:社会学・ライフヒストリー／ライフストーリー研究・社会問題等、『境界文化のライフストーリー』(せりか書房、2005年)

岡野八代:政治思想史／フェミニズム理論、『フェミニズムの政治学—ケアの倫理をグローバル社会へ』(みすず書房、2012年)

岩崎 稔:哲学/政治思想、「〈慰安婦〉問題が照らす日本の戦後」『岩波講座アジア太平洋戦争 記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争』(岩波書店、2015年、長志珠絵との共著)

日時:2018年5月13日(日)13:00~18:00

事前予約不要・資料代 1000円

主催:『戦争と性暴力の比較史へ向けて』刊行記念シンポジウム実行委員会

連絡先:kaken25245060@gmail.com

会場:上智大学四谷キャンパス 2号館 401教室

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

(JR中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線/四ツ谷駅麴町口・赤坂口から徒歩5分)

キャンパスマップ [https://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access\\_yotsuya.html](https://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya.html)



上野千鶴子・蘭 信三・平井和子編

## 『戦争と性暴力の比較史へ向けて』 (2018年2月岩波書店刊)

はじめに——戦争と性暴力の比較史へ向けて	編者
序章 戦争と性暴力の比較史の視座	上野千鶴子
<b>第Ⅰ部 「慰安婦」の語られ方</b>	
第1章 韓国の「慰安婦」証言聞き取り作業の歴史 ——記憶と再現とめぐる取り組み	山下英愛
第2章 「強制連行」言説と日本人「慰安婦」の不可視化	木下直子
第3章 日本軍「慰安婦」制度と性暴力——強制性と合法性をめぐる葛藤	岡田泰平
第4章 兵士と男性性——「慰安所」へ行った兵士／行かなかった兵士	平井和子
<b>第Ⅱ部 語り得ない記憶</b>	
第5章 セックスというコンタクト・ゾーン——日本占領の経験から	茶園敏美
第6章 語り出した性暴力被害者——満洲引揚者の犠牲者言説を読み解く	猪股祐介
第7章 引揚女性の「不法妊娠」と戦後日本の「中絶の自由」	樋口恵子
第8章 ナチ・ドイツの性暴力はいかに不可視化されたか ——強制収容所内売春施設を中心として	姫岡とし子
<b>第Ⅲ部 歴史学への挑戦</b>	
第9章 性暴力と日本近代歴史学——「出会い」と「出会いそこね」	成田龍一
第10章 戦時性暴力を聞き取るということ ——『黄土の村の性暴力』を手がかりに	蘭信三
第11章 戦争と性暴力——語りの正統性をめぐって	佐藤文香
あとがき	編者

### 本書の内容

戦争における性暴力を当然視・許容する語りに抗しつつ、また、生存戦略として行使される女性のエイジェンシー(行為主体性)を否定せずに、戦争と性暴力を問題化することはいかに可能か。性暴力当事者間の関係性のグラデーション(敵味方/同盟国/占領地/植民地、強姦/売買春/取引/恋愛/結婚)に注目し、さまざまな時代背景のなかでどのような加害・被害の語りが社会的に許容されるか、また、時期によって語りと聞き取りがいかに変遷するかを、さまざまな事例を比較して分析する。

岩波書店 HP より <https://www.iwanami.co.jp/book/b345698.html>